

## 平成18年度第2回京都市図書館協議会摘録

日 時 平成19年3月22日  
13時15分 ~ 14時45分  
場 所 京都市生涯学習総合センター  
3階 第4研修室  
出席委員 [10名中9名出席]  
青野 京子 委員  
岩永 ひとみ 委員  
上田 真理 委員  
桐田 襄一 委員  
迫田 照夫 委員  
原田 憲一 委員  
不破 哲 委員  
森田 眞利 委員  
山岡 祐子 委員

(五十音順)

傍聴人数 1名

### 1 開 会

原田京都市図書館協議会会長挨拶  
中嶋中央図書館長挨拶

### 2 報告事項

事務局から以下の項目について報告した。

#### (1) 数値目標を設定した図書館利用拡大の取組について

図書の貸出冊数は、平成16、17年度は依然過去最高水準にあるが、さらに図書館利用を拡大していくためには、積極的に新たな利用者の獲得が必要である。全館全職員が共通意識の下、各館ごとの過去最高実績を取り出し、その合計を全館での目標値として、その達成に向けて全館で取り組んできた。

達成に向けた取組として、行事实施回数の増加や学校への出張行事等、図書館のあらゆるサービスや行事の充実、図書館PRパンフレット作成や子ども用のホームページの開設、また学校や新聞社等と協力した広報の強化、各館ごとの地域に根ざした特色ある図書館づくりなどを行った。18年度においては、1月末現在、入館者数は計310万人(対前年同月比0.9%減、インターネット予約の影響と考えられる。)、新規登録者数は4万4千人(対前年同月比1.0%増)、貸出冊数は523万冊(対前年同月比2.3%増)と、平成18年度第1回京都市図書館協議会で説明した目標値には届いていないが、貸出冊数では増加が見ら

れるなど取組の成果が現れている。来年度に向けても取り組みを強化する。

## (2) 子ども読書活動の推進について

### ・読み聞かせ講座

子どもの読書活動を推進するため、図書館職員及び地域や学校などで活動するボランティアや市民に読み聞かせの基本を伝えることを目的とし、平成15年度から年間4回実施。18年度は洛西、岩倉、東山、久我の各図書館で実施。

### ・学校協力貸出制度の見直し

現行の学校協力貸出は、特定の授業のテーマに沿った資料に限定されているが、学級文庫や朝読書、放課後読書等の読書活動にも対応できるよう制度の拡充について検討中。

### ・平成19年度「子ども読書の日」記念事業

4月23日の「子ども読書の日」と定められたことを記念して、平成14年度から行われている記念事業として、19年度は綿矢りささんをお迎えした一日中央図書館長、ブックリスト「本のもり」掲載図書展示や販売、各図書館における読書絵はがき展、おたのしみ会を行う。

## (3) 京都市図書館25周年記念事業について

平成18年11月3日(祝)に、京都市図書館開館25周年事業として、「梨木香歩の世界」と題して、作家 梨木香歩さんをお招きし、著作の読み語りと、インタビュー形式でお話を伺った。380名の方にご参加いただき、参加者アンケートでは「憧れの先生の話が聞けてよかった。」「梨木さんを身近に感じられた。」などの声が寄せられた。

## (4) 夜間開館の推進について

身近な生涯学習施設である図書館のサービス向上を図るため、平成12年度から年次計画で夜間開館をすすめている。平成19年4月には久世ふれあいセンター図書館、醍醐図書館の2館で夜間開館を開始し、京都市図書館全館で夜間開館を実施することとなる。

## (5) 右京中央図書館(仮称)について

### ・図書館の概要

地下鉄東西線の延伸に伴い設置される「天神川駅(仮称)」周辺地区に建設される市街地再開発施設3階に、約3,000㎡の京都市図書館では最大規模となる「右京中央図書館(仮称)」を開設する。

この図書館は「京都大百科事典的図書館づくり」「充実したIT環境」「生涯学習の拠点づくり」「地域の活動拠点づくり」の4つのコンセプトに基づき、開設への取り組みを進めている。

蔵書については、開館時に約21万冊、うち約1万4千点はCD、DVDの視聴覚資料を揃える予定としており、最終的には約30万冊を計画している。

開館時間については、中央図書館や醍醐中央図書館同様、平日は午前10時から午後8時30分、土日・祝日は午前10時から午後5時まで、休館日は毎週火曜日とする。

開館時期については、平成 20 年春を予定している。

図書館のキャッチフレーズは、「3×4+1(スリーフォー・プラスワン)図書館」。

面積 3,000 m<sup>2</sup>・蔵書 30 万冊・インターネット接続パソコン 30 台の設置・再開発施設 3 階のそれぞれ「3」をとりスリーフォーとし、プラスワンは市民参加の「参」としている。

・より身近で利用しやすい図書館づくり

右京中央図書館では、従来の図書館サービスである資料の閲覧・貸出に加え、新たなサービスを実施する。

主な内容として「来館者が自由に活用できるインターネット接続パソコンの提供や、DVD・CD 等色々な電子メディアソフトの視聴が楽しめるサービスの提供」、「ネット配信で【名作・最新映画】から【地域情報・文化・科学・実用情報・世界遺産紹介等に至る多彩なクリップ映像】を専用ブースで視聴できるサービスの提供。また同ブースで、昭和初期から 20 世紀までの京都のまちの移り変わりを収めたクリップ映像(「京都市映像ライブラリー」)を見て・楽しんでいただくサービスの提供」などを計画している。

・施設について

図書館建設において初めて実施した「市民参加のワークショップ」や「みんなで考える新しい図書館づくり・市民アンケート」での意見や要望を設計に反映した市民とのパートナーシップによる図書館づくりを実施しているところである。

当館の中心となる「京都大百科事典コーナー」や「電子メディアコーナー」をはじめ各コーナー様々な趣向を凝らしており、楽しみにしていただきたい。

### 3 質疑応答・協議

#### <数値目標について>

・数値目標の取組により、図書の貸出冊数が増えているが、ベストセラーの貸出が増えているのか、何が増えているのか分析が必要ではないか。

(回答)9 類の貸出が特に多いが、同じ 9 類の図書でもベストセラーから源氏物語まであり、そこまでの分析はしていない。今後より細かい分析をする必要があると思われる。

・IC タグを導入すれば、どのような分野の貸出が伸びたのかといったデータは簡単に取ることができるのか。

(回答)そのようなデータを取るかどうかは分からないが、現在もベストセラーであっても館ごとの購入冊数の上限を決めているため、飛躍的にベストセラーの貸出が伸びているわけではない。インターネット予約の導入により、館を限定せずに予約をかけるようになったため、回転率は良くなり、待っていただく時間は短くなっている。

・数値目標の設定により、貸出冊数を伸ばすことを目標としているのか。

(回答)新規利用者を増やし、貸出冊数を伸ばすということを目指しているが、来館者が減少している所から見ると、そのような状況にはなっていない。

・利用者にお金を払ってもらって、図書を送付するというシステムを作ってはどうか。  
(回答) 地方ではコンビニにて有料で受け取るサービスもあるが、制度としてはうまくいっていないようである。

・インターネット予約利用者に新着図書の情報をメールで配信してはどうか。  
(回答) 人気のある図書の掲載については、ホームページの充実で対応している。

#### < 在宅貸出について >

・京図ものがたりにも掲載されていたが、在宅貸出制度は以前から行われているのか。今回初めてそのような制度があることを知ったが、保健所やヘルパーの方を通じ、障害を持った方により知らせるべきではないか。

(回答) 在宅貸出制度は昭和 59 年 7 月から始まっている。今後より広報を強化する。

#### < マンガミュージアムについて >

・マンガミュージアムとの関係はどう考えるか。マンガは図書館としては歓迎されていないが、マンガ文化をはぐくむという意味で図書館でも対策してはどうか。

(回答) 図書館では確かにマンガをあまり置いていないが、マンガを増やすことにより貸出冊数の伸びにもつながると思われる。しかしマンガは冊数も多く、一種類購入し始めると継続して買い続けなければならない。マンガミュージアムとの関係については、マンガミュージアムの状況を見ながら、所管の生涯学習部とも連携していく。

#### < 右京中央図書館(仮称)について >

・映像配信専用ブースで視聴するモニターの大きさは。

(回答) 20 インチディスプレイを設置し、また友人同士や親子連れで鑑賞できるよう 2 人掛ブースも設置する予定である。

(委員意見) マンガミュージアムや右京中央図書館が完成する中で、今後拠点となる図書館が必要となるのではないか。京都文化発信の拡充、市民参加管理運営等着実に実現されている。また、安易にマンガの配架で図書館の利用者を増やすのではなく、図書館としての厳粛さも必要である。